九州高段者研修会に参加して

益田克法

十月七日(土)、八日(日)の両日、九州高段者研修会が鹿児島県武道館で開催された。当初は木下文男先生の高級車に乗せてもらい「楽をして」行って帰るつもりだったが木下先生の予定が変わり単独での武者修行になった。牛深フェリー、長島を渡る旅である。

まず前日の六日(金)は、高校時代の剣道の恩師が住む薩摩川内市の剣道連盟が行う夜の稽古会に参加した。稽古後は恩師宅に泊まった。もちろん第二道場の稽古を楽しんだ訳だが、久しぶりの一杯で剣道談義に話がはずみ、つい深酒気味になり、翌日の立ち会いが不本意なものになった。やはり大事な稽古の前は朝に酒が残ったらだめであるという教訓を得た。皆さまも御注意あれ。特に昇段審査を受けられる方は。

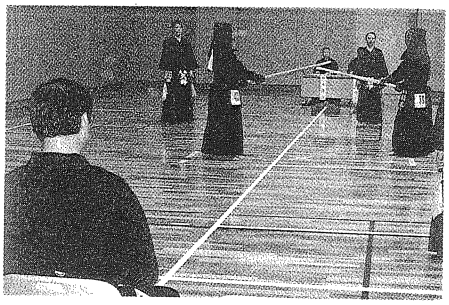
翌朝、薩摩川内市から鹿児島県武道館へ向かった。午前中は児嶋範士の講話があり、午後から立会いになった。六段、七段、八段受審者に分かれて三パートで行い、四人一組が終わるたびに二名の講師が的確に指導助言を行っていった。参加者がとにかく多い！　数えなかったが百人は優に超えていたと思う。しかもそのほとんどが八段受審者だった。九州研修会とあって沖縄からも参加者があり、特に地元鹿児島の参加者の多さには感心した。私への指導は「右手の力を抜け」「打ち抜けること」だった。すでに何人かは私と稽古や試合をしたことのある鹿児島の剣道家もおり、私の剣道交流も広がってきたなあ、と思った。

その日と翌日の締めくくりに八段の講師が元立ちの指導稽古があった。児嶋（鹿児島）、甲斐（宮崎）、古庄（福岡）、末次（福岡）、末野（鹿児島）、一川（熊本）、佐藤（長崎）、俣木（鹿児島）、有満（鹿児島）の各八段。それぞれ個性のある剣風で、懸かっていくより見取り稽古の方が有益と思い、一人に懸かったあとは面を外し、足捌き、先の機会、返しの間合い、鎬の使い方を中心に見取り稽古に専念した。それぞれ百鍛千錬の修行を主張するような素晴らしい稽古であったが、すべての八段に共通することは次の点であった。①常に先を取っている、絶対先を取らせない。②手の内の確実さ、つまり軽く振って重く決まる。③受けっぱなしが絶対ない、少々遅れをとっても必ず返している。④鎬の使い方が絶妙。⑤相手の心境を見透かしている(ようだ)。ひとりだけ挙げると、鹿児島の末野先生。この方は私の高校時代、私より年長で、鹿児島商業高校の全国的な名選手だったが、端正な構えを始終崩さない。面に届く瞬間、返し胴一閃。面に出る瞬間小手をポン、決死の面に高い位置で右からのすり上げ面、どうしようもなくなった所に見透かしたように相面。面に間を切って裏からの応じ面。これらを力の抜けた楽な姿勢でいとも当たり前のように決めていく。才能、と言ってしまえば簡単だが、我々の窺い知れない努力、研究、練磨の何十年もの成果であろうと思う。八段を看板に背負って剣道人生を歩くということは我々が思う以上に大変なことではないだろうか。ふと、むしろそんなことを見取り稽古をしながら感じたことでした。段位が全てではないが、昇段を目指す過程で自分の剣道を見直したいものです。

来年は、是非天草の仲間も多数参加して九州の剣道家と切磋琢磨、研鑽し剣道の醍醐味を共に味わいたいものです。そのためにも日頃の不断の稽古に共に励みましょう。

社会体育指導者（上級）講習会を受けて

木下文男



正式には剣道社会体育指導員養成講習会といいます。主旨としては、地域において剣道活動を実施している学校・道場・クラブ・スポーツ教室等で剣道の指導に当たっている指導者の資質の向上を図り、剣道をより充実し正しく普及発展させること、および指導者に必要な知識・能力を得ようとするものの養成を目的とする、というものであります。

受講資格として、

初級…年齢二十二歳以上で剣道三段以上の者。

中級…年齢二十八歳以上で剣道五段以上、全剣連社会体育指導員剣道（初級）認定後四年を経過した者。

上級…剣道七段以上で全剣連社会体育指導員剣道（中級）認定後四年を経過した者。

という条件があり、初級、中級には諸事で受講できない人のため「更新」という制度があります。私の場合、平成九年に熊本県剣道連盟から初級講習の案内が来ました。剣道に関していろんな勉強をしたかった私は、二泊三日、宿泊ということで迷いましたが、講習場所が地元熊本ということもあり、思い切って受講することにしました。

初級の講習は、平成九年十一月二十一日～二十四日までの二泊三日、熊本の「火の国ハイツ」。中級は平成十三年六月一日～三日までの二泊三日、福岡県宗像郡の「グローバルアリーナ」。上級は平成十八年三月十日～十二日までの二泊三日、大阪の「舞洲アリーナ」にてそれぞれ受講しました。全剣連トップクラスの講師先生方に早朝より夕方遅くまで、剣道形、審判法、指導法、剣道に関する歴史、健康・安全について懇切丁寧に、ときには厳しく教えていただきました。稽古の方も朝稽古、夕稽古と鍛えて頂きました。初級、中級の場合はかなり余裕がありましたが、上級は高段者的立場が非常に多く求められ、いかに今まで勉強不足であったか身にしみてわかりました。各科目ごとにテストがあり、それぞれに合格して級がいただけます。すべてにおいて緊張の連続でありましたが、ひとつの試験が終わる毎に自分の自信へとも繋がりました。自分の人生で久しぶりのペーパーテストとレポート、大先生の前での試合、審判、指導。みんな点数となります。

剣道人生において、本当に何事にも代えられない二泊三日となりました。もちろん合格したことも嬉しいことですが、一番の喜びは、この三回の講習会で日本全国に剣友が増えたということです。これは、私の貴重な宝物です。皆さんもこのような素晴らしい講習会を経験されることを是非お勧めします。